

会 議 報 告 書						
会議名	令和5年度第1回草津市あんしんいきいきプラン委員会					
開催日時	令和5年6月8日(木) 14:00~15:30					
開催場所	南部健康福祉事務所(草津保健所) 3階大会議室					
委員	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
	委員長	佐藤 卓利	出席	委 員	川那部 光子	出席
	委 員	鈴木 孝世	出席	委 員	寺嶋 和男	出席
	委 員	山本 博一	欠席	委 員	柴田 弘三	出席
	委 員	中西 真由巳	出席	委 員	磯山 信夫	出席
	委 員	宮城 徳幸	出席	委 員	田付 逸朗	出席
	委 員	松永 将孝	出席	委 員	山口 芳栄	出席
	副委員長	小川 義三	出席	委 員	宮本 英彦	出席
	委 員	新村 真喜子	出席	委 員	今居 功	出席
	委 員	林 明礼	欠席	委 員	夏原 かず子	出席
	委 員	中村 秀樹	欠席	委 員	吉岡 孝治	出席
事務局	健康福祉部：永池部長、安藤副部長					
	長寿いきがい課：松本課長、力石課長補佐、田中係長、三越係長、河原田副係長、松田主任					
	介護保険課：高阪課長、木村参事、大西課長補佐、野邊副係長					
その他	傍聴者 なし					

1. 開会および挨拶

<草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告>

<健康福祉部長から挨拶>

2. 議事

(1) 草津あんしんいきいきプラン第8期計画 令和4年度事業実績・評価について

事務局	○資料1に基づき説明。
委員	○5ページ、ネットワークの構築や地域の困りごと、助け合いの必要性について、生活支援体制を活用して他の自治体で困りごと等の支援を行っているところがあるか調べたところ、ゴミ出しや買い物、掃除、電球交換、話し相手をしている自治体があった。これから単身で高齢の家庭も増え、買い物や電球交換などの問題も解決できる制度があれば助かる。草津も有償のボランティアについても対応できないか。
事務局	○有償ボランティアについては、お助け隊など、いくつか有償ボランティアがある。また、生活支援サポーター養成講座を通じて、人材を増やす取組やシルバー人材センターを通じた支援等を進めている。

委員	○高齢者になっても貢献できる人とか、もう少し安価で手軽に手伝ってもらえるようなことがあればありがたい。
委員	○この草津市内を見渡して、1番困っているのはタクシー運賃が高いということ。高齢者に対して、免許証を返納してくれというような運動があるが、免許を返納できない。草津市内では、バスもタクシーも高い。また、呼んでもなかなか来ないということもある。まめバスやまめタクを一部の地域だけではなく、全地域で運行し、高齢者がもっと手軽に動くことができ、行動範囲が広がるような施策があればいい。
委員	○地域ケア会議の検討事例数は何件か。
事務局	○令和4年度の地域ケア会議の事例数は、地域ケア個別会議が78件、自立支援カンファレンスが50件、合計128件である。資料には、令和元年度時点の118件から令和4年度までの累計件数を記載しており、533件となっている。
委員長	○今後、何件あったという評価からさらに突っ込んでその中身の分析をしていただきたい。それぞれの事例の中身を分析して、そこから課題を抽出する、そういう課題もある。
委員	○13ページ、生きがいづくり・活躍の場づくりの「地域での活動に参加する高齢者の割合」について、目標値である80%は2023年度のことなのか。他の達成状況では、目標値に2023年度と記載されているが、この項目では記載されていない。また、2019年度に74.2%から今回73.5%に下がっている中、評価としてはAになっているが何か理由があれば教えていただきたい。
事務局	○1点目のご質問、こちらはニーズ調査の項目を目標値としており、ニーズ調査は3年に1回行っているため、他の項目とは異なる記載をしている。 2点目のご質問、今回は地域の活動に参加する高齢者の割合が目標値に達することができなかったが、各事業の実施にあたっては計画どおり実施できたという観点から、A評価にしている。
委員	○原因が知りたい。前回調査した2019年はコロナ禍前だが、やはりコロナ禍の影響があったのか。
事務局	○ニーズ調査の結果からコロナ禍の影響は、地域での外出制限などの質問項目で見られたため、関連していると推測される。
委員	○4ページ、「学区の医療福祉を考える会議」を今後どうしていくのか、今の状況と併せて教えていただきたい。
事務局	○学区の医療福祉を考える会議は、現在13学区で行っており、社会福祉協議会に委託し、地域包括支援センターと行政も連携しながら進めている。昨年度もこの委員会で議論があったが、訪問系介護・看護サービスの駐車場確保の問題では、まずは3学区でモデル的に始めるために、もう少し議論を深めていこうと動き出しているところである。また、地域サロンなどの社会資源はどこにあって、地域で何が足りないのかというところをマッピングして地域で考えていくため、システムを構築する予定をしている。例年、地域の事情や会議のメンバーの思いに左右されるところではあるが、いろいろな切り口を持ちながら、進めているような状態である。

事務局	○学区の医療福祉を考える会議は、生活支援体制整備事業の中で実施しており、ご承知のとおり、あんしんいきいきプラン委員会が第1層協議体の場になっている。今年度も生活支援体制整備事業について委員会で協議する予定であり、そちらの方でまた議論をさせていただきたい。
-----	---

(2) 草津市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果について

事務局	資料2に基づき説明。
委員	○アンケートの表記について、気になるところが2点ある。1点目、例えば1ページの複数項目のグラフで、多い回答のものと少ない回答のものがばらばらに表示されていることから、多い回答から順番に並べる方が分析しやすい。2点目、例えば、5ページのグラフについて、一番上のグラフは左の方が好ましくないが、一番下のグラフは、左の方が非常に好ましい。右と左と逆になっている。 それから、介護・介助が必要ないという項目において、令和2年度と令和5年を比較すると約10%改善している。そこで草津市の健康寿命の延伸に関して、その関連を教えていただきたい。
事務局	○ご指摘いただいたとおり、概要資料について本編に掲載する際、より明確にわかるようグラフの表記について検討を行う。 また、健康寿命については、大きく分けて2種類あり、ご自身が健康であると自覚している主観的なものと要介護2以上の方がどれだけいるかという客観的な数値がある。以前、滋賀県で客観的な数値の健康寿命が高いという研究をされ、ボランティア活動やウォーキングなどの運動をする機会、図書館の利用率、そういった文化的なところが健康寿命を延ばしているのではないかという研究が出されている状況である。

(3) 草津あんしんいきいきプラン第9期計画の策定について

事務局	○資料3-1、3-2、3-3に基づき説明。
委員	○資料3-1、6ページ目の介護人材の確保、生産性向上のページに記載されている財務状況等の見える化だが、財務状況の見える化というのは、具体的に何を言っているのか。
事務局	○詳しい国の指針はまだ出ていないが、介護サービス事業所の経営情報を詳細に把握・分析できるよう、介護サービス事業者の財務状況が見える化し、国がその情報を収集・整理して情報を公表するというふうに記載をされている。
委員	○今は経営状態が公正に出ていないということか。
副委員長	○現状として社会福祉法人の会計については公表しなければいけないが、介護に参入されている株式会社は公表されていないところもあり、株式会社も含めて見える化を行っていくというところを示していると思う。

副委員長	<p>○国の基本指針を見ている中で、介護現場の生産性向上という言葉に引っかかっている。介護現場は、物を扱っているわけではないというところをまずしっかり認識をしてもらって、生産性向上の目的は何かを明確にしていく必要があると思う。単に介護労働時間を短縮するとか業務効率化するというだけでなく、その結果、利用者の方によりサービスを提供していく時間を増やすことでサービスの向上につなげていくことが、本来の目的ではないか。ここを履き違えると大きく方向性が変わってくる。生産性向上というような言葉は、これからも出てくると思うが、ぜひとも草津市のあんしんいきいきプランでは、生産性向上という言葉を使わず、例えば業務改善そういった形で明記してもらおうと、介護現場として非常になじみやすい。</p> <p>もう一つ人材確保の面について、草津市だけでなく近隣4市との連携を図りながら我々事業者、協議会の方も動いているが、この前、新しく50年後の推計データが明らかになり、高齢化に伴い生産労働人口はかなり減り、人口そのものも減ってきている。介護人材は、さらに厳しくなるので、人材を発掘するというのではなく、これからの介護人材を育成するという視点に変えていくことと、もう1点は、外国人介護労働者の必要性が高まってくるので、実態をもう少し深掘りしながら、雇用を促進するような方向性を出してほしい。住まいの確保や経費など、いろんな弊害になることが多々ある中で、そのあたりを踏まえた中長期的な計画にしなければならない。ケアマネジメントの向上も、先ほどの生産性の向上に伴って、IT化やICT化が進むと、よりそこについていけないケアマネジャーが増えてくるのではないかと、そのあたりをもう少しわかりやすく計画性を図っていくべきである。</p>
委員長	<p>○国の基本指針とはいえ、介護保険の事業計画を作るのはそれぞれの地域である。大枠は国が示すけれども全部そのとおりにし、その草津市版を作るという発想ではなく、草津市のこれまでの実績や現状を踏まえて、第9期計画を策定するという姿勢でできればいい。</p>
委員	<p>○特に医療や介護の分野では、あまりにも書類が多く、実際に入所の皆さんの世話をする時間がなかなか取れない。ところが、デジタルシステムの導入に伴い、コンピュータ上で行うと、ある程度時間の空いているときにいろんな職種の方が記載することで、出来上がる。その空いた時間を入所者の健康管理やリハビリにより集中できる。生産性の向上というのは、あくまである程度、ICTによって空いた時間を質の高い介護にまわすなど、これが介護現場の生産性向上と思っているので、こういうところを第9期に間違いなく、踏み込んでいただきたい。</p> <p>それから、国と言ってもいろんな地域の集合体である。全くデモグラフィック（demographic：性別、年齢、居住地域、所得、職業、家族構成など人口統計学的な属性の総称）が違う。だから草津市独自の人口構成を背景とした計画にしていきたい。</p>
委員長	<p>○現場からの意見を次期9期計画にできるだけ反映し、草津市のオリジナルな事業計画ができるようにしていけたらいい。</p>

委員	○この会議で何回か、訪問医療サービスをするときに駐車場がなく困っておられるという話を聞いているが、まちづくりセンターや会館の駐車場、お昼に使われていない家の駐車場など結構空いていると思う。広報などで募集を行い提示するなどそう難しく考えず、もっと簡単にシンプルに考えて使えないものか。
事務局	○前回会議のときに紹介したが、生活支援体制整備事業の中で、駐車場を地域のまちづくりセンターや事業者に協力いただいて、空いているところをお貸しいただく方向で今動き出しているところである。後々は、高齢に伴い車を手放された方で駐車場が空いているような方にもご協力いただけるような体制をとっていければと考えている。
委員	○訪問に行く時、うまく止められる場所がなく、駐車違反の可能性が高い場合は、職員に送り迎えをしてもらっている。その職員はその時間帯働けず、入所者を見守れない。これを何とかするために、3つの地域で議論が始まっているということで、非常に心強い。今はもう高齢化が進みこういう状況であることから、訪問時の駐車場の確保について拡大していただければ助かる。
委員長	○草津市は担当課をこえて、共通の課題として、駐車場を確保するという事はぜひやっていただきたい。

3. 開会